

もぐもぐだより

宮津市学校給食委員会
献立作成部会
令和5年 10月 26日
No.6

どくしょしゅうかん 読書週間がやってきました！

10月27日～11月9日は読書週間です！ 終戦後の1947年、戦争の傷痕が残っている中、「読書の力で、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと始まりました。そこで、給食でもその本にちなんだメニューを出します。楽しく本を読みながら、給食も味わいましょう！



ほん 本の紹介

「いわしくん」 著：菅原たくや（文化出版局）

10月27日のメニュー。
「イワシのちゃんちゃん焼き」
を作ります。



いわしくん
菅原たくや

＜出版社からの内容紹介＞

海で泳いでいたいわしくん、捕まえられて、夕食のおかずになりました。元気な男の子に食べられて、男の子の体になりました。いわしくんはプールで泳ぎます。

私たちの体は食べたもので、できている。
そのことを考えさせられる絵本です。

「すがたをかえる大豆」 筆者：国分牧衛

10月30日のメニュー



みつむらとしょ
（光村図書）

このように大豆についての本にもものっています♪
すがたをかえる食べもの
①大豆がへんしん！
監修：香西 みどり（学研プラス）



「おかしな？ハロウィン」 作：ザ・キャビンカンパニー（ほるぷ出版）

10月31日のメニュー。かぼちゃを使ったケーキを作ります。



＜出版社からの内容紹介＞

今日はハロウィン。子どもたちは、おばけに変装して、おかしをもらいにいきます。とんとんとん！おばあさんの家にやってきた子どもたちは、変わったおかしをいっぱいもらいます。コウモリクッキー、おおかみのふんチョコ……、さて、このおばあさんの正体は……！？

「うみ」 作：ピレット・ラウド 訳：内田也哉子（岩波書店）

11月1日のメニュー。サバを使ったごまだれ焼きを作ります。



＜出版社からの内容紹介＞

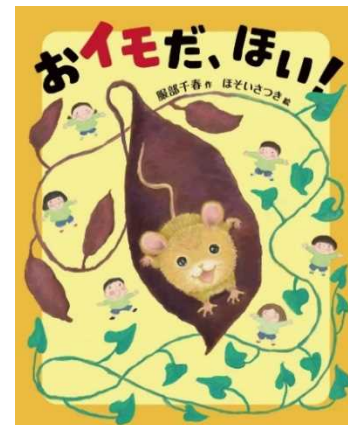
うみは魚たちが寝る前に、物語を毎日読んであげていました。でも、魚たちのおふざけがすぎて疲れてしまったある日、うみはこらえきれずにいなくなってしまう。さて、残された魚たちは……？

エストニアを代表する絵本作家がおくる、おやすみ前のよみかかせの大切さを伝えるシュールで美しい絵本。

「おイモだ、ほい！」

11月2日のメニュー。
さつまいもを使った大学芋を作ります。

作：服部千春 絵：ほそいさつき（岩崎書店）

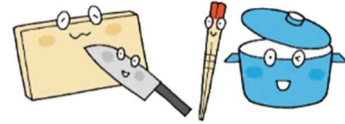


＜出版社からの内容紹介＞

野ネズミのお母さんと子ども達は、おイモ狩りに出かけました。一番小さいチョロが大喜びでおイモにかじりついていると、おひさまえんの園児達がおイモほりにやってきたのです。逃げ遅れたチョロは、先生のリュックのポケットに入ってしまった。園へ行ってしまったのです！チョロの大冒険の始まりです！



ほん しょうかい 本の紹介



「とってもすてきなおうちです」

ぶん 文: なかがわちひろ 絵: たかはしかずえ (アリス館)

11月6日のメニュー。

「とってもすてきなキャベツ炒め」を作ります。

＜出版社からの内容紹介＞

小さな一軒家で、いろいろな生き物たちが気持ちよく暮らしている様子を描く。生き物たちが自分のおうち自慢をしていく中で、それぞれちょっとした困ったことがあるのですが、それもふくめてよしとする、温かさにあふれた絵本。



「宙ごはん」

著: 町田そのこ (小学館)



11月7日のメニュー。

絵本に出てくる「悪い出とぼらばらレタス」や「卵チャーハン」を作ります。

＜出版社からの内容紹介＞

宙には、育ててくれている「ママ」と産んでくれた「お母さん」がいる。厳しいときもあるけれど愛情いっぱい接してくれるママ・風海と、イラストレーターとして活躍し、大人らしくなさが魅力的なお母さん・花野だ。二人の母がいるのは「さいこーにしあわせ」だった。宙が小学校に上がるとき、夫の海外赴任に同行する風海のもとを離れ、花野と暮らし始める。待っていたのは、ごはんも作らず子どもの世話もしない、授業参観には来ないのに恋人とデートに行く母親との生活だった。代わりに手を差し伸べてくれたのは、商店街のピストロで働く佐伯だ。花野の中学時代の後輩の佐伯は、毎日のごはんを用意してくれて、話し相手にもなってくれた。ある日、花野への不満を溜め、堪えられなくなって家を飛び出した宙に、佐伯はとっておきのパンケーキを作ってくれ、レシピまで教えてくれた。その日から、宙は教わったレシピをノートに書きとめつけた。全国の書店員さん大絶賛！どこまでも温かく、やさしいやさしい希望の物語。

「よくばりいぬ」 著: イソップ、平田昭吾 (フティック社)



11月9日のメニュー。鶏肉を使った山賊焼きを作ります。

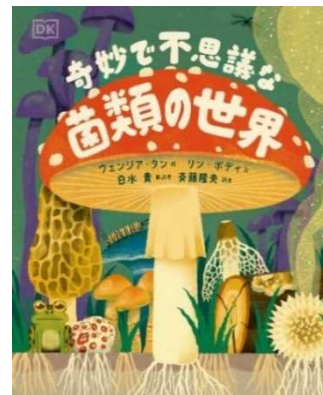
イソップ物語は、紀元前ギリシャのイソップにより創作されました。あるところに、よくばりな犬がいました。お肉をくわえて川をのぞくと、そこには、もっと大きなお肉をくわえた犬がいるではありませんか。とってしまおうと思って…。

「奇妙で不思議な菌類の世界」

著: リン・ボティ イラスト: ウェンジア・タン (創元社)

11月8日のメニュー。

きのこたっぴりのスープを作ります。



＜出版社からの内容紹介＞

肉眼では見えず、動植物に比べると見過ごされがちな菌類。しかし、じつは私たちの生活や地球環境に大きく関わっています。本書では、きのこをはじめとする菌類の特異な生態、自然環境における重要な役割について、世界トップクラスの専門家が正確かつ平易に解説。最新の知見をふまえて、菌類たちの知られざる生態を丁寧に説明しています。きのこ愛好家はもとより、自然好き、科学好きの好奇心を刺激してやまない、子供も大人も楽しめるイラストブック。